アメリカンフットボール選手にみられた外側半月板中節損傷

○内田 良平（うちだ りょうへい）(MD)[1)]，塩崎 嘉樹（MD)[1)]，田中 美成（MD)[2)]，
北 圭介（MD)[2)]，天野 大（MD)[2)]，堀部 秀二（MD)[3)]

[1)] 正風病院　スポーツ整形外科
[2)] 大阪労災病院　スポーツ整形外科
[3)] 大阪府立大学　リハビリテーション学部

【はじめに】

外傷性の外側半月板中節単独損傷については，症例報告が散見されるのみであり，受傷メカニズムもよくわかっていない．そこで今回我々は，外側半月板単独損傷のアメリカンフットボール選手に対し，受傷機転を中心に検討したので報告する．

【方　法】

外側半月板中節単独損傷の治療を行った大学アメリカンフットボール選手6例6膝（男性のみ，平均年齢20±1.3）を対象とした．MRIと関節鏡で確認された外側半月中節の横断裂2例，斜断列1例，弁状断裂3例に対し部分切除または縫合を行った．受傷時の各選手のポジション，サーフェイス，シューズ，受傷状況及び肢位についてビデオまたは本人からの詳細な聴取により調査した．

【結　果】

ポジションの内訳はラインが2例，ラインバッカーが2例，バックスが2例であった．全例人工芝で人工芝用スパイクを着用していた．受傷状況は試合または試合形式の練習が3例，パート練習が3例（タックル2例，パスプロテクション1例）であり，5例がコンタクト時の受傷で，内タックルが4例であった．受傷肢位は全例膝屈曲外反位であった．

【考察及び結論】

タックルやボールキャリーで膝屈曲位の状態にコンタクト時の強い外力が加わることで膝外反強制となり，外側半月中節に損傷が起こると考えられた．さらに人工芝で足が固定されやすい状況下にあることも関与している可能性があり，人工芝でのコンタクトスポーツでは本損傷への注意が必要である．